

# 「運転免許証更新送迎バス、調査・研究する」

## 木浦市長が一般質問で明言

12月議会が13日終わりました。今号では、私が7日に行った一般質問の概要をお知らせします。取り上げたテーマは、運転免許証更新問題、雪対策、介護施設労働者の労働条件改善の3つです。今回の質問では、運転免許証更新送迎バスの調査、効率的な除雪体制の検討、市内介護施設での労働者の実態調査などを約束してもらいました。

【橋爪】柿崎交番で運転免許証更新手続きがで

きなくなつてから2年半を経過したが、関係住民からは、柿崎交番あるいは自動車免許試験場

で更新手続きができるようにという声が相次いでいる。市長はどう受け止めているか。

【木浦市長】地域の皆さんの中には、更新手続きと免許証交付の二回にわたって上越警察署へ出向くことがわずらわしく、手続き当日の即日交付を求める声があることも承知しているが、県警によれば、今後予定されている免許証のICカード化が図られた後の課題として検討したいとのことであり、現時点においては、同交番における業務再開及び運転免許センター上越支所における運転免許更新業務の実施などについては、難しい状況にある。

【橋爪】合併前の吉川町は運転免許証保有率が県内市町村でトップだった。いま、免許証保有者のうち、65歳以上の人は22%を超えている。上越署まで出かけることが困難な人もたくさんいる。全国には、福岡県粕屋町のように更新にあたって送迎バスを出しているところがある。当市においてもこうしたサービスを検討してもらえないか。

【木浦市長】当市においても、こうしたサービスを実施することは、特に高齢者の皆さんの利便性を確保する観点から、意義あるものと考えているが、他地域との公平性や運行経費と受益のバランス、あるいは、利用者のニーズと利用実績など、実施に当たり検討すべき課題もあるので、今後、他の自治体の状況や事例なども参考に調査・研究してみたい。



上越市議会の一般質問は1回目だけ登壇し、2回目の質問から特設の質問席で行います。傍聴者だけでなく、議員も聴衆になります。聞き手の心をとらえた時はシーンと静まり返ることもあれば、「そうだ」の掛け声も。意見が合わない発言や非常識な発言には激しい野次も飛びます。

### 困む会で出されたご要望についての回答

橋爪法一を困む会で皆さんから出されたご要望は区総合事務所などに伝えましたがすでに回答が返ってきたものは、関係する町内会長さんにお伝えしますので、よろしくお願ひします。

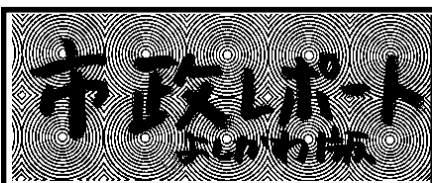


早急に段差解消をの聲がでている新保橋付近。

### 平成18年豪雪の総括、しっかりと

【橋爪】死者5人、重軽傷者30人も出た平成18年豪雪の総括がいまもって議会に示されていない。総括してあるなら、明らかにされたい。

【木浦市長】平成18年豪雪は、市民生活にも重大な影響が生じ、当市を含む県内8市3町に災害救助法が適用される災害となった。海岸部から中山間地域まで、多様な地域特性と広大な市域を有する当市の災害対応における課題などについて、改めて認識したところだ。総括については、市町村合併に伴う状況変化への対応、災害時要援護者の安否確認、安全確保の重要性、管理放棄された家屋、いわゆる空き家に付随した災害への対処、雪処理等に係る人材の確保、市街地における屋根雪の一斉除排雪作業実施に伴う市民生活への影響の軽減と、大別して5項目に整理した。



NO 1325  
2007.12.16

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/

【橋爪】 昨年の6月議会で私は、今後の豪雪に備え、山間集落の民家の除排雪人員や冬期集落保安要員の確保、小型除雪機導入への支援など、いくつかの検討課題を提起してきたが、その後どうなったか。

## 町内会などが小型除雪機を購入する 場合の補助制度は今年度創設した

【木浦市長】 これらの取組みは、過疎化や高齢化が進む中山間地域の集落において極めて重要であることから、この間、支援体制の整備と充実を進めてきた。

冬期集落保安要員の確保については、県の雪対策に関するヒアリングなどにおいて、特に過疎化や高齢化が進む中山間地域の集落で本制度に対するニーズがあることを訴え、新たな視点による対象集落の拡大や設置要件の緩和など、制度の充実を強く要望してきた。

小型除雪機など機械力の配備については、今年度、地域などが協力して生活道路や家屋周辺の除雪を行うために町内会などが購入する小型除雪機の購入費用に対する補助制度を創設した。今後もこのような制度の充実と利用促進を図り、冬期間の道路交通及び日常生活の安全確保に意を用いてまいりたい。

## 効率的な除雪体制の検討へ

【橋爪】 合併して間もなく4年目に入る。これまでの各区の枠を基本としながらも効率的な除雪体制をどうつくるか検討していくべき時が来ているのではないか。

【木浦市長】 ご提案の効率的な除雪体制づくりについては、合併後3年を経過する中で、これまで築き上げてきた水準を維持しつつ、効率的な除雪体制を検討する時期が来ていると考えている。このため、新年度には本庁及び各区総合事務所の実務担当者から成るワーキングチームを編成させ、除雪業務を

委託している108の除雪事業者の皆さんからご意見をお聞きした上で、サービス水準の維持を前提に、除雪体制の現状を効率面から検証することになっている。その中で、除雪区域の見直しなど、実施が可能なものから直ちに着手するなど、効率的な除雪体制の構築に向け、取り組んでまいりたい。

## 市内の介護労働実態調査を約束

【橋爪】 財団法人「介護労働安定センター」が7月、昨年度の介護労働実態調査結果を発表したが、低賃金で離職率が高いなど深刻な実態が浮き彫りになった。どう受け止めているか。

【木浦市長】 離職率については、調査期間1年間の離職者のうち、勤務年数1年未満は42・5%、1年以上3年未満は38・3%で、離職者の8割以上が勤務年数3年未満となっており、事業所を離職率別に見た「離職率階級別事業所数」も、離職率が30%以上の事業所が25・4%と最も多く占めている。また、賃金や労働時間などの労働環境については、「仕事内容の割に賃金が低い」、「休憩がとりにくい」、「健康面の不安がある」と回答した方の割合が高くなっていることなど、様々な観点から、介護労働者が厳しい労働環境に置かれている実態であることを、改めて認識したところだ。

【橋爪】 市内の介護労働者から自分の職場の実態についての訴えをメールでいただいた。それから見ると、上越市内の労働者の実態は全国平均よりも低い可能性が高い。国に支援を求めるためにも、市内の介護職場の実態について調べていただきたい。

【木浦市長】 これまで私が市内の介護施設の関係者からお聞きした限りでは、当市の実態についても全国調査の結果と概ね同様なものと考えているが、今後も市内の介護事業者の皆さんとの意見交換を始め、様々な機会を捉え、的確な実態把握に努めてまいりたい。

【橋爪】 機会を捉え、的確な実態把握に努めるといわれたが、全部の職場を対象にした調査をしていたきたい。

## 物産館前交差点でまた事故 5年間で人身事故は8件目

吉川物産館前の交差点は「魔の交差点」と呼ばれていますが、11日の午前7時50分頃、また出合い頭事故が発生し、2人が軽い怪我を負いました。

上越署の調べによれば、平成15年からこれまで同場所で人身事故が起きたのは、今回を含めて8回にもなります。事故はいずれも原之町商店街の方かた来た車と体育館の方から来た車の出合い頭に発生しています。

昨年、PTAなどの団体が関係機関に早く信号機を設置してほしいと文書で要請しましたが、急いで実現させなければなりません。



11日の夕方、県警から市役所に派遣されている交通安全専門官や防災安全課の茂木課長からもきてもらい、現地調査をしました。

【木浦市長】 「介護労働安定センター」の調査項目を参考にしながら、市内の事業所の調査について前向きに検討したい。